夕焼け通信1274号　2020.9.7

〒690-0823　島根県松江市西川津町4276-402
miyaken@me.com　gosuitei.sakura.ne.jp/yuyake/
編集 宮森健次

専業ババ奮闘記（その２）　20

木幡智恵美

懐妊（4）

四か月目に入った娘のお腹が、少しふっくらしてきた。つわりはまだ治まらないようだ。寛大と実歩を保育所に迎えに行き、夕食を摂らせていると、仕事から帰ってきた娘は、テーブルに乗せていたその日採りたてのキュウリを手に取り、「これ、食べていい」と言うなりかじりついた。「腹が減ると気持ち悪くなるに」

五歳の誕生日を目前にした寛大は、いろいろなものに興味をそそられる様子。お迎えの車の中で、「ババおうちにジェンガある」と言う。帰って娘の部屋に上がると、牛乳パックで補強した箱に入っていた。一通りの説明をして始めたものの、二度とも負け、以来「ジェンガ」のジェの字も言わなくなった。最近は字や数字にも興味を示しだし、絵を描きながら数字の歌を歌うと、何度もせがむ。そのうち、使用済みカレンダーの数字をマジックで上書きするようになり、しまいには切り抜きだした。

実歩は、パズルと木製のかるたがお好みだ。パズルは、一人で全部嵌めることはできないので、こっちも手伝わねばならない。やりながら、ボケ予防をしている気分になる。

七月も半ばを過ぎた週末、忠ちゃんが泊りがけの仕事が入ったとのことで、母子三人我が家に泊まりに来た。いつものブロックやパズルに加え、やはり我が子が使っていた独楽やけん玉、ヨーヨーなども引っ張り出して、寛大や実歩の前に並べた。娘が年長児の頃、保育所で独楽回しが流行ったことがあり、負けず嫌いの娘は、できるまで何度も練習していた。けん玉やヨーヨーは息子たちがよくやっていた。当時はハイパーヨーヨーというのが流行っていて、二人ともいろいろな技に挑戦していた。

それらを前に、実歩は全く無関心でブロックを組み立てている。寛大は一通り試したが、独楽もけん玉も難しすぎてあっさり放棄。ヨーヨーだけは、こつがつかめたようでしばらくやっていたが、結局は実歩と一緒にブロックを始めた。まだ少し早すぎたかな。

続人生の踊り場　60

今岡　幹

誰そ彼

九月で六十歳、取り敢えず勤め先を大過なく定年退職と相成りました。前後左右縦横斜め全部の方々へ感謝の気持ちで一杯です。

地元の工業高校を卒業してから四十二年、よくも飽きずに毎日々々同じ会社に通ったものだと我ながら寒心する思いです。兎にも角にもルーティーンの連続でした。基本的に放置プレイの仕事なので直属の上司もいなければ部下もいない、万年平社員のままひっそりと定年を迎えます。が、残念ながら現実には退職日の翌日から再雇用という形で再びルーティーンが始まるのです。隠遁したいのは山々ですが懐事情がそれを許しません。尤も今のご時勢、仕事をする場があるだけでも幸せだと思わなければならないのでしょうが。

ただ、自身の心奥では六十歳を人生の大きな節目として捉えているようで、このところ身の回りの整理や片付を自然と行うようになりました。私にはオタク＆マニアックな蒐集癖があり、執着心のある瓦落多を後生大事に抱え込んでいたのですが、何故だかそれらを何の抵抗も無く平気で処分できるようになってしまったのです。

それらのモノに対する今までの拘りは全体何だったのか、逆にモノが無くなっていくことが快感に繋がるというこの心境の変化を自分でも不思議に感じています。これが世に言う断捨離に通ずるものなのでしょうか。勿論売れるものは売ってなるべくゴミは出さないように務めています。今では次は何を処分してやろうかなと、ワクワクが止まらなくなってしまいました。

さて、奇しくも今号で六十回目の投稿となりました。人生の踊り場はとっくに過ぎてしまった年齢ですし、切りも良いので今回をもってお開きにさせていただきます。皆さまありがとうございました。とはいえこれで退くつもりはなく、次回（いつになるやらわかりませんが）からは『人生の誰彼』というタイトルに変えて再雇用をお願いしたいと思います。

一般的にたそがれは『黄昏』と書きますが、元はと言えば夕暮れ時は人の顔が判別し難いので「誰そ彼（あなたはだぁれ？）」が転じて使われるようになったと聞きます。けど昨今はのべつ幕なし皆マスク姿で誰だか彼だかわからなくなっているので、朝から晩まで誰そ彼になっちゃいましたね。

30代フリーター　やあ、ジイさん。安倍政権がついに終わる。

年金生活者　もし新型コロナの流行がなかったら、安倍晋三は自ら公表したような程度の病状では辞任しなかったのではないか。新型コロナという災厄の責任を取ることを国民に迫られ、辞任に追い込まれたと考えるのが妥当と思える。持病の悪化はその口実に使われた。内閣支持率の低迷は過去の一時的な落ち込みと違って、退陣を求める国民のメッセージとなった。それは昔の「王殺し」の再現と見ることができる。

30代　かつての政界のプリンスが悲劇の王となったってわけか。

年金　吉本隆明は「西欧的な〈王〉の概念では、〈王〉は人民により担ぎ上げられる存在であるとともに、ひき降される存在でもある」とし、「凶事が続発すれば、それは〈王〉に神をなだめるだけの〈威力〉がないためであり、〈王〉の存在が不吉であるためであるとされて、殺害されてしまう」と書いている（「天皇および天皇制について」）。

安倍晋三もまたコロナという「凶事」のゆえに、その直接の責任がないにもかかわらず、「存在が不吉」と国民にみなされ、「宗教的な供犠」（同）として退場を求められたと解釈することができる。同様の「王殺し」は、リーマン・ショックの「凶事」に見舞われた麻生政権に対しても、3・11震災の「凶事」に遭遇した民主党政権に対しても実行された。

30代　安倍政権がこれだけ長期化したのは謎だな。

年金　理由のひとつは、自民党が戦後長きにわたって政権を維持できた理由と同じと言っていい。憲法改正を党是にしながら実行はせず、経済を優先してきたのが自民党だ。安倍晋三もまた改憲を政権の看板にしながら実行に移すことなく、アベノミクスの名のもとに経済優先を踏襲した。本人は不本意だったとしても、結果は歴代の自民党政権と変わりなかった。今後どんな政権ができても、それは変わらない。万が一にも合流新党が政権を握ることがあったとしても同じだ。合流新党の中には改憲論者も少なくないと推定されるが、それは口だけに終わるだろう。国家権力を縛るのが憲法だとしたら、現憲法を憲法たらしめているのは、国家に対する究極の縛りといっていい9条の存在であり、非戦・非武装のその理念は戦後の日本国民のアイデンティティーとなっているからだ。

それでも改憲論が絶えることがないのは、それが一種の反復強迫だからだ。アメリカに新憲法を押しつけられたとき、日本の政府と国民はその想定外の中身に不意打ちを食らった。心の準備がないまま受け入れざるを得なかった。事前にできなかった心の準備を事後にしようとする心の動作が反復強迫であり、それが改憲論の形をとって繰り返しあらわれる。それは憲法を我がものとするのに必須の症状ともなっている。

30代　首相の辞任表明後に行われた共同通信の世論調査（8月29、30日）によると、内閣支持率が56・9％と、その1週間前の調査より20・9ポイントも上昇している。

年金　最大の理由は退陣を求める世論に従ったことへの評価だろう。だが、それだけでこの大幅な上昇率は説明しにくい。辞任表明が国民にこの政権の7年8カ月を振り返らせ、その政策が国民生活にもたらした利益を思い起こさせたと思われる。

藤原かずえというブロガーが「安倍首相が創った小さな幸せ」というタイトルで政権をたたえる一文を書いている。「小さな幸せ」という言葉で言いあらわしているのは、失業率の低下とそれと相関関係にある自殺者数の減少だ。「安倍政権は日本の失業率を1980年代のレベルまで奇跡的に低下させ、民主党政権時代に約3万人／年いた自殺者を、2019年までに約2万人／年まで低下させました」と彼女は書く。

失業は生活の基盤だけでなく、個人が社会的な承認を受ける場を奪う。言い換えれば、雇用は生活の基盤を提供するとともに、だれもが持つ承認欲求を満たす場を用意する。前者がフィジカルな利益だとすれば、後者はメンタルな利益であり、両者はともに人間が生きていくうえで必要な条件と言える。

30代　雇用の拡大は安倍政権に限らず、どんな政権でも目標にしてきた。

年金　ただ、そのための財政出動をしやすくするために、過去に例のないマイナス金利政策を日銀に採らせた点が、これまでのどの政権も異なっている。

アベノミクスを特徴づけるこのやり方はいま注目されだしているMMT（現代貨幣理論）の部分的な応用ととらえることができる。自国通貨を発行する政府は債務不履行に陥ることが原理上あり得ないから、インフレの恐れが出てくるまでは、いくらでも借金してバラマキをすればいい。そう主張するこの理論を安倍政権はその意図なく財政政策に当てはめた。

MMTは貨幣を富とは考えず、富を動かす記号として扱う。記号なので、記帳するだけでそれは移動し、富の移動を媒介する。マルクスが解明に取り組んだ貨幣の物神性からあたう限り解放された考え方ということができる。それはマイナス金利と並んで、これまでの資本主義の常識を覆すものとなっている。

ニュース日記　752

中村　礼治

コロナが終わらせた最長政権